

編集後記

このたび、編集委員、社保学術部のメンバー及び関係者のご尽力により「明日の臨床」を創刊することができたのは、誠に嬉しいことで有る。各位にお礼申し上げる。今から二年程前、新しい年度の第一回社保学術部の会議で私は、世界の医学界に通用する権威のある学術誌を作りたいと提案した。当時部長であった城後先生をはじめ、多くの方々の賛同を得、編集の責任者に推薦された。

以後多くの夢を持ち出発したが、学会誌を一度も発行したことがない部会では、何もかもが知らないことばかり。いわゆる学術誌のスタイルから勉強を始め、投稿規約、表紙のデザイン、論文の配列等、細かい所まで勉強した。毎日の診療で忙しい会員の中から、学術誌の編集委員を選した。診療の合間を縫っての度重なる編集会議は、ご迷惑であったと思う。まず、多くの医学誌の名前を名古屋大学医学部図書館で拾いあげ、未登録の医学誌名を調べ、編集委員の投票により「明日の臨床」と名付けた。われわれ会員は、明日に希望を

持ちつつ、限り無く進歩のある診療を続けて行きたいという願いを込めた。本誌の内容については、度々協議を重ねた結果、次のように決めた。

第一に、社保学術部主催の研究会において発表された、その時代の、医学水準を幅広く知って頂くための教育的な講演を載せる。次に会員の日常遭遇する疾患、話題等、診療に密接に関係のある原稿を、会員から広く公募して、気楽に発表してもらうセクションを設ける。

医学が日進月歩、いや、時間単位で進歩して行く今の時代にあった本誌は、常に純粋に学術的な立場で、編集をして行かなければならないと考える。そのことが会員各位の明日に繋がる臨床の糧になれば幸いである。最後に、学識経験者の立場で、細部にわたり指導を賜った名古屋大学医学部高橋英世助教授に感謝する。

「明日の臨床」編集委員長

岡田達郎

編集委員(五十音順, *印委員長)

岡田達郎* 後藤雄 城後俊明
高橋英世 野村忠男

明日の臨床

Vol. 1 No. 1

1989年6月1日

編集 明日の臨床編集委員会
印刷所 名古屋電子コピーセンター
発行所 愛知県保険医協会
名古屋市昭和区妙見町19-2
〒466 ☎ (052) 832-1345

頒 価 1,000円